



吉田駿医師

する危険性があり、検出されたときは再検査しておく
と安心だ。
山梨県立中央病院腎臓内
科の吉田駿医師によると、
腎臓は血液をろ過して尿を
つくる臓器。腎臓がうまく

医療最前線 症状に潜む

県立中央病院から

<224>

健康診断で最もなじみのある検査の一つである尿検査でタンパク質が確認されたときは、腎臓に何らかのトラブルが起きているかもしれない。放置すれば人工透析が必要になるまで悪化

機能しないと、血液に含まれるタンパク質が尿に漏れ出してしまふ。考えられる病気としては、糖尿病の合併症である糖尿病性腎症、動脈硬化により腎臓がダメになり、検査を受けて起きる腎硬化症

広い年齢で発症する糸球体腎炎は、血液をろ過する部分「糸球体」に異常があり、明確な予防策はない。一部を除いて自覚症状がないまま進行することがあり、尿検査が診断につながる大事

タンパク質の量を詳しく調べるとともにタンパク尿の継続性をチェック。発熱や運動直後のほか、一定時間立った姿勢で過ごし、尿の採尿では一時的にタンパク質が検出される

能が失われて人工透析となる可能性が出てくる。
生活習慣の変化により糖尿病性腎症が広がり、新たに人工透析を開始した患者は全国的に増加が続いている。一方、山梨県内の基幹病院である県立中央病院ではここ10年間は横ばいとなっているものの、糸球体腎炎が原因のケースが3割近くを占めていて、警戒を緩める状況には至っていないという。

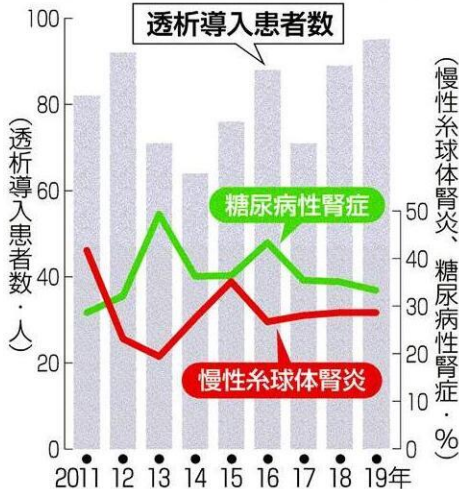
タンパク尿積極的に再検査を 人工透析に至る可能性も

子どもから高齢者まで幅広い年齢層となる。
再検査では、尿に含まれる

ことがあり、こうした要因を排除していく。血液なども調べて糸球体腎炎が疑われた場合、背中側から針を刺して腎臓の組織を採取し、確定診断につなげる。

吉田医師は「人工透析となれば週3回の通院が必要になり、生活の質を落とすことにつながる。腎機能の悪化そのものが心臓病や脳卒中を発症するリスクを増やし、命を脅かす可能性も出てくる」と警告。「糸球体腎炎は早期に判明すれば根治も可能。尿タンパクが出たら、再検査を積極的に考えてほしい」

山梨県立中央病院 透析導入患者数と 原因となる病気の割合の推移



高血圧であれば降圧剤の投与や食事での塩分制限を実施。免疫抑制に問題があれば、ステロイドを投与して治療する。放置して悪化させてしまうと、進行を遅らせる治療しかできなくなる。最悪の場合、腎臓の機能

第2、4木曜日に掲載